

調査の概要

○調査目的

本市におけるヤングケアラーと思われる子どもの実態を把握するため、小中学生に対して実態調査を実施し、支援策を検討するための資料とすることを目的に実施。

○調査対象

佐賀市立学校に通う、小学6年生および中学1・2・3年生の児童・生徒

○調査方法

- ・GIGAスクールで活用している1人1台端末を使用し、Formsのアンケート機能で回答
- ・各校の学活等の時間を活用し調査を実施

○調査期間

令和4年6月～令和4年9月

○調査内容

- (1) 基本情報
- (2) 普段の生活について
- (3) 家庭や家族のことについて
- (4) ヤングケアラーについて

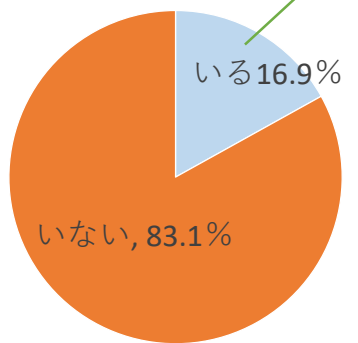
○回収状況

	調査対象人数	回答人数	回答率
小学生	2,114人	1,771人	83.7%
中学生	5,471人	4,504人	82.3%

佐賀市 ヤングケアラーに関する実態調査結果について【小中生】

(小学生) お世話をしている家族が「いる」と回答した人は16.9%。そのうちヤングケアラーに「あてはまる」との回答は1割。お世話をしている家族は「母親」「弟・妹」が多い

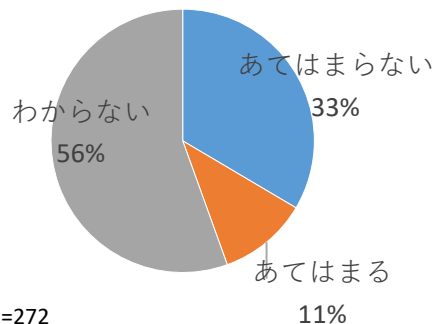
お世話をしている家族



n=1,606

<参考>
国調査：いる 6.5%

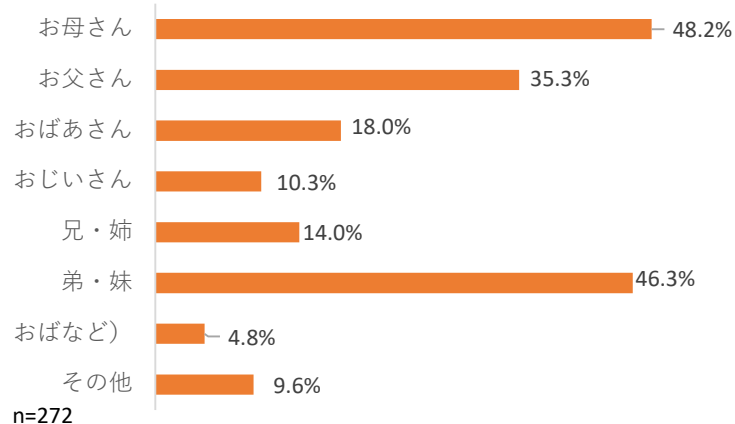
世話あり×ヤングケアラー自己認識



n=272

親戚の人(おじ、おばなど)

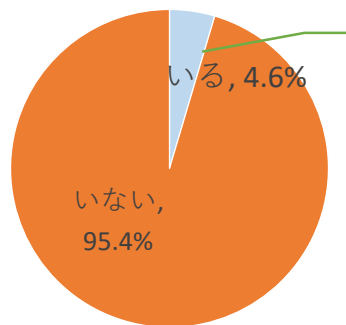
世話をしている家族(複数回答)



n=272

(中学生) お世話をしている家族が「いる」と回答した人は4.6%。そのうちヤングケアラーに「あてはまる」との回答は1割。お世話をしている家族は「弟・妹」が最も多い

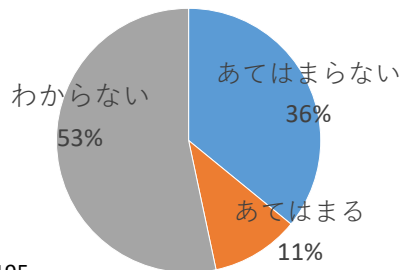
お世話をしている家族



n=4,241

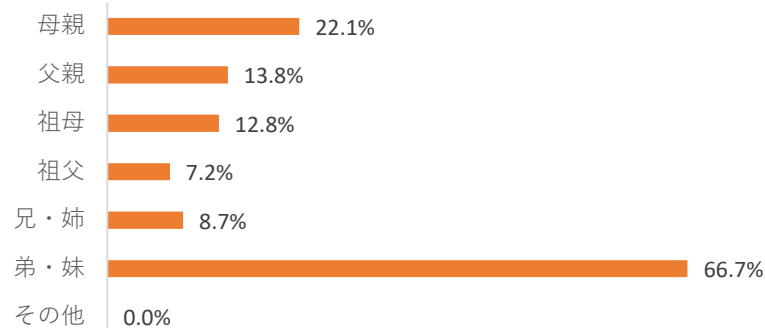
<参考>
国調査：いる 5.7%

世話あり×ヤングケアラー自己認識



n=195

世話をしている家族の内訳(複数回答)

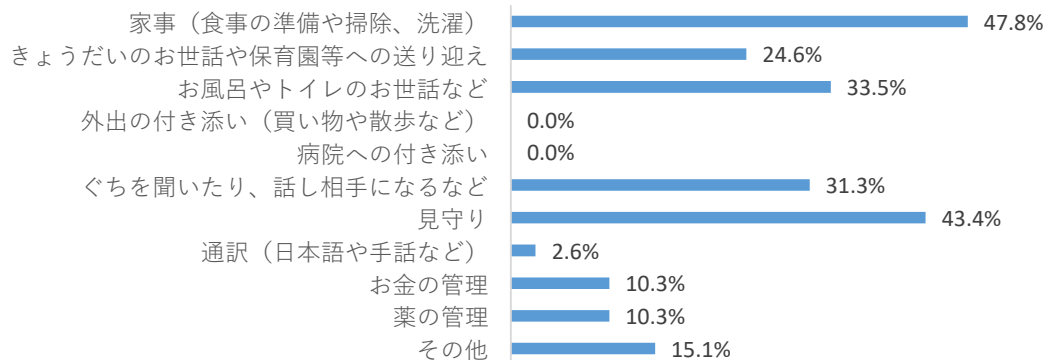


n=195

佐賀市 ヤングケアラーに関する実態調査結果について【小中生】

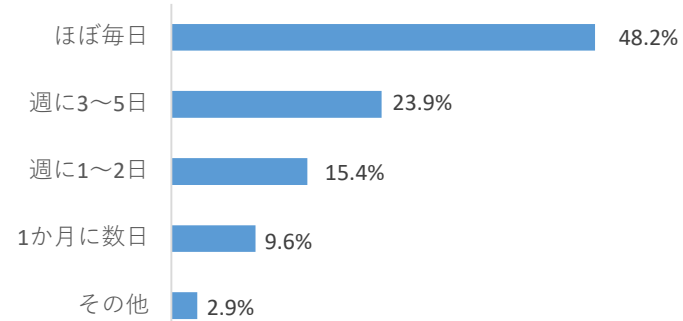
(小学生) お世話の内容は「家事」や「見守り」が多く、頻度は「ほぼ毎日」の割合が高い

お世話の内容（複数回答）



n=272

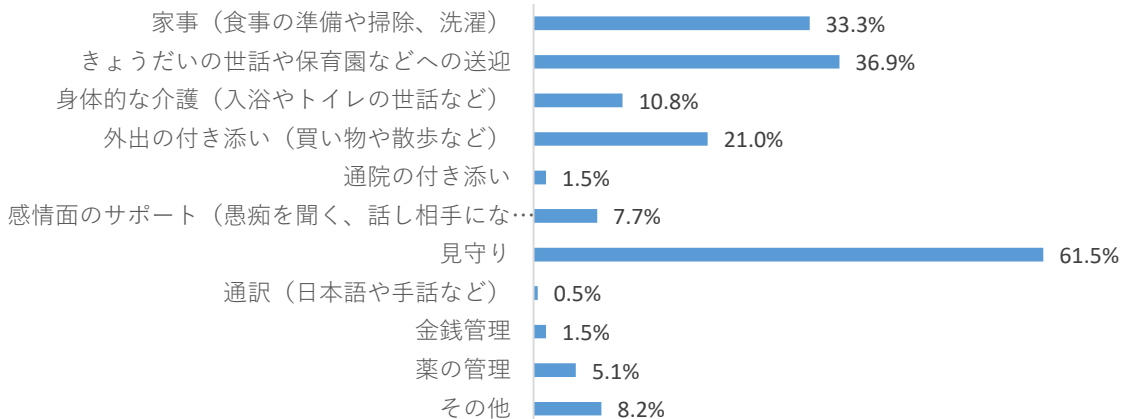
世話をしている頻度



n=272

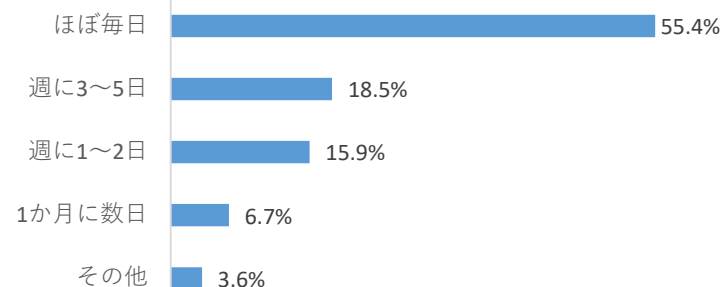
(中学生) お世話の内容は「見守り」が最も多く、頻度は「ほぼ毎日」の割合が高い

お世話の内容（複数回答）



n=195

世話をしている頻度

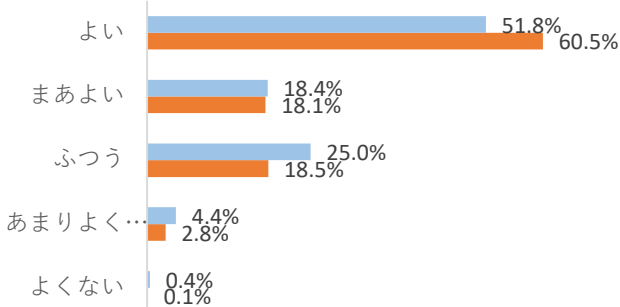


n=195

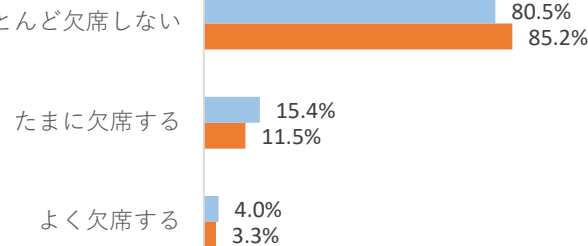
佐賀市 ヤングケアラーに関する実態調査結果について【小中生】

(小学生) お世話をしている家族が「いる」人は、「いない」人に比べ、健康状態が「あまりよくない」、学校を「たまに欠席する」、遅刻や早退を「たまにする」「よくする」の割合が高い。

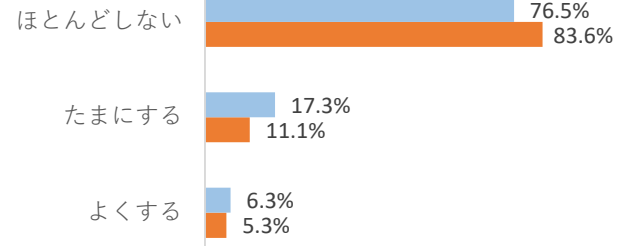
健康状態



学校の出席状況



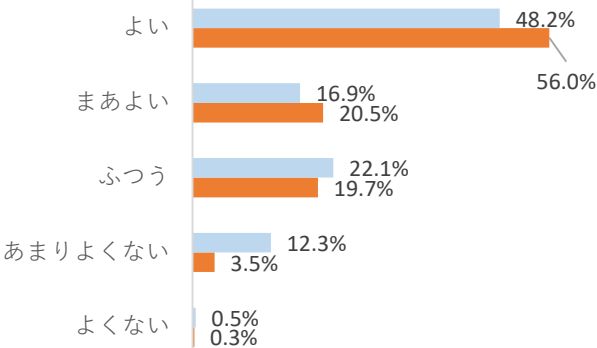
遅刻・早退の状況



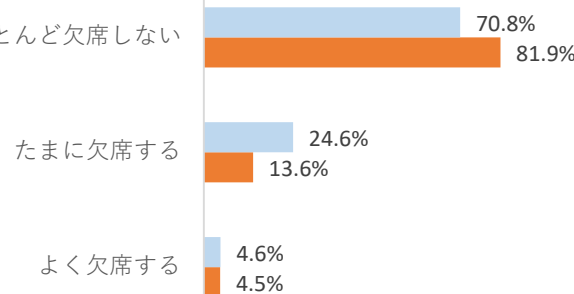
■ 世話をしている家族が「いる」 (n=272)
■ 世話をしている家族が「いない」 (n=1,334)

(中学生) お世話をしている家族が「いる」人は、「いない」人に比べ、健康状態が「あまりよくない」、学校を「たまに欠席する」、遅刻や早退を「たまにする」「よくする」の割合が高い。

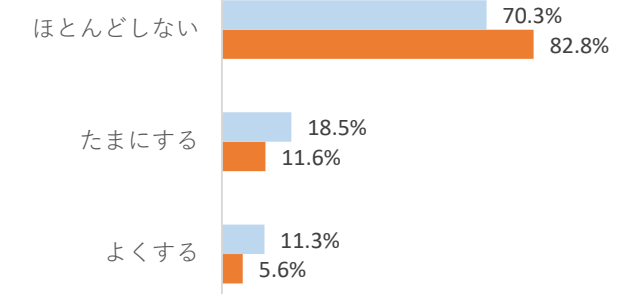
健康状態



学校の出席状況



遅刻・早退の状況

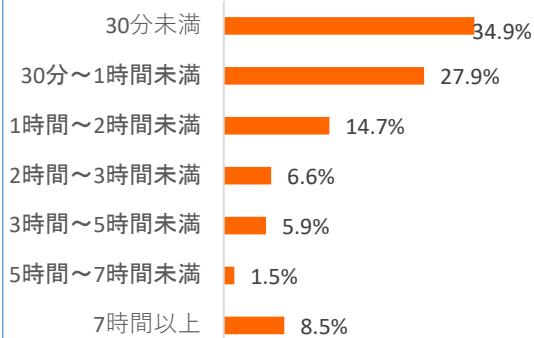


■ 世話をしている家族が「いる」 (n=195)
■ 世話をしている家族が「いない」 (n=4,046) 4

佐賀市 ヤングケアラーに関する実態調査結果について【小中生】

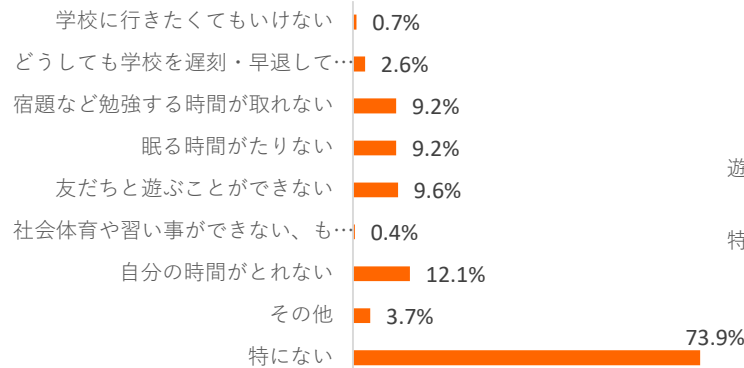
(小学生) 1日のお世話の時間は「30分未満」や「30分～1時間未満」が多い。生活への影響は「特にない」が最も多く、次いで「自分の時間が取れない」と回答する割合が高い

1日のお世話の時間



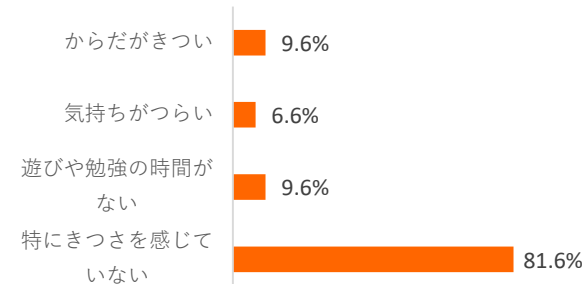
n=272

生活への影響など（複数回答）



n=272

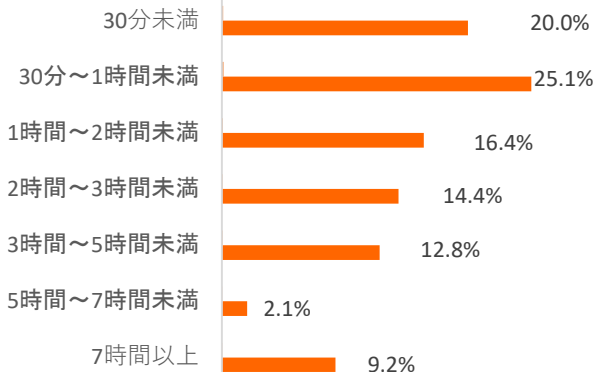
お世話について感じていること（複数回答）



n=272

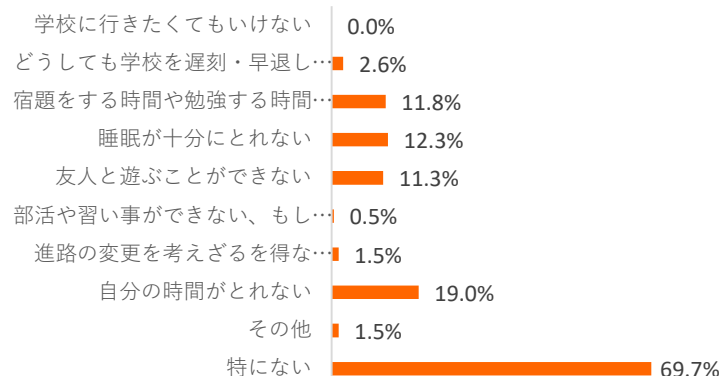
(中学生) 1日のお世話の時間は「30分～1時間未満」「30分未満」が多い。生活への影響は「特にない」が最も多く、次いで「自分の時間が取れない」と回答する割合が高い

1日のお世話の時間



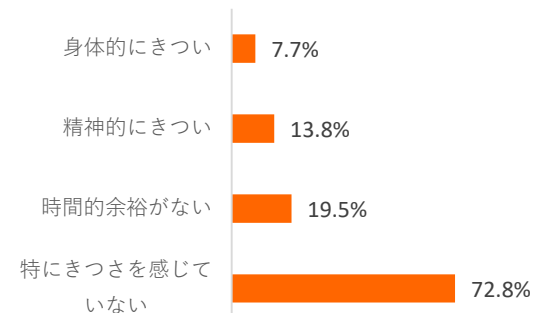
n=195

生活への影響など（複数回答）



n=195

お世話について感じていること（複数回答）

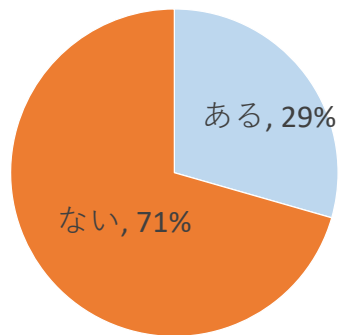


n=195

佐賀市 ヤングケアラーに関する実態調査結果について【小中生】

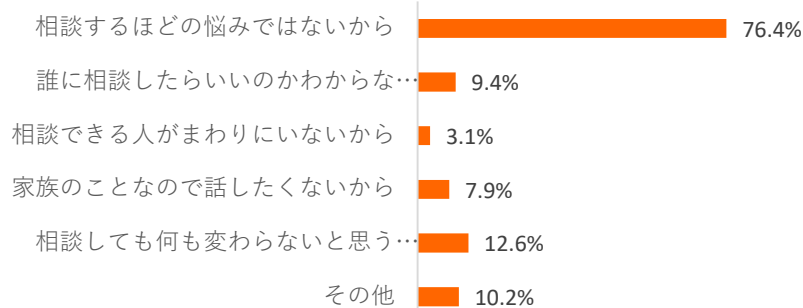
(小学生) お世話について7割が相談したことがなく、その理由は「誰かに相談するほどの悩みではない」と回答した割合が最も高い。相談した相手は「家族」が最も多い。

相談の経験



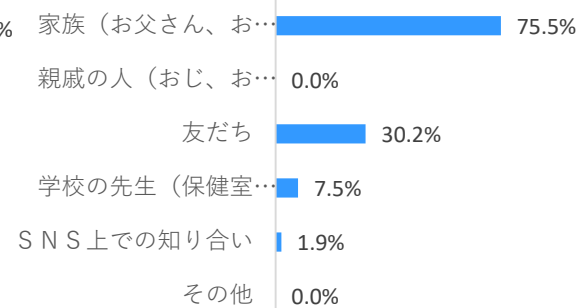
n=180

相談していない理由 (複数回答)



n=127

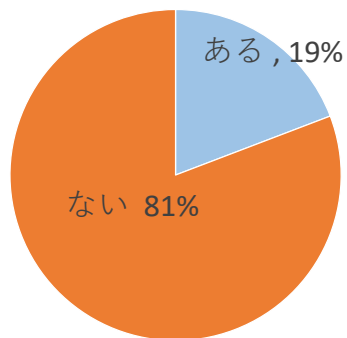
相談した相手 (複数回答)



n=53

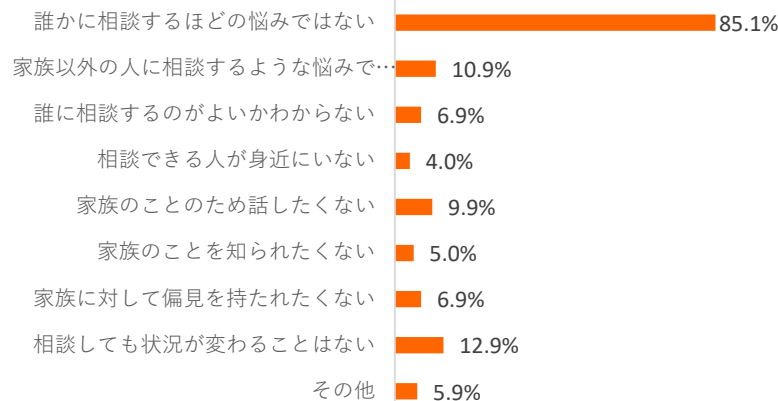
(中学生) お世話について8割が相談経験がなく、その理由は「誰かに相談するほどの悩みではない」と回答した割合が最も高い。相談した相談相手は「家族」が最も多い。

相談の経験



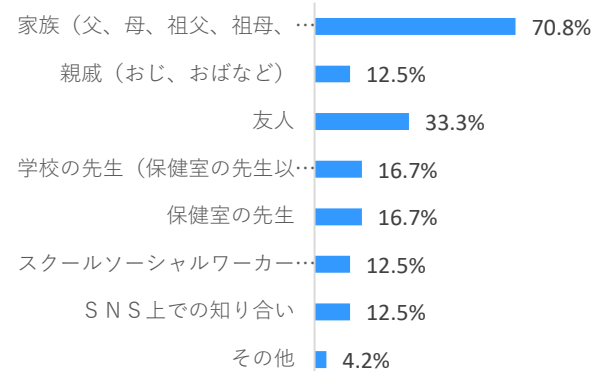
n=125

相談していない理由 (複数回答)



n=101

相談した相手 (複数回答)

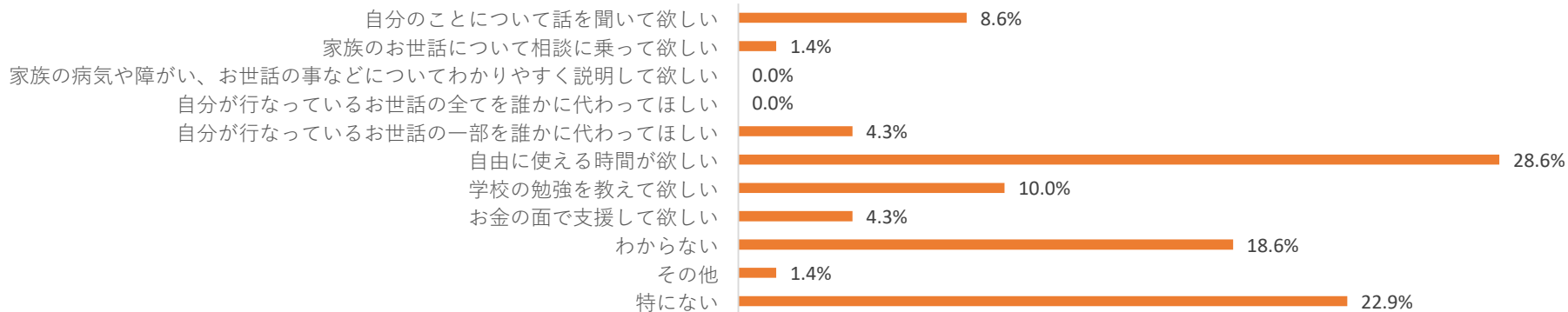


n=24

佐賀市 ヤングケアラーに関する実態調査結果について【小中生】

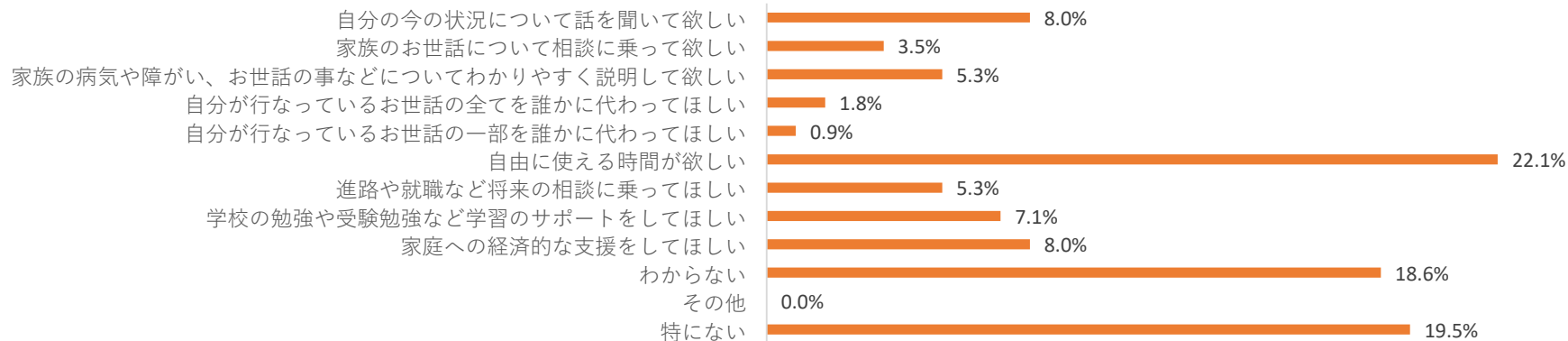
（小学生）お世話に何らかのきつきを感じていると回答した人が、学校や大人に助けてほしいことは、「自由に使える時間が欲しい」「学校の勉強を教えてほしい」「自分のことについて話を聞いてほしい」等の割合が高い。

お世話に何らかのきつきを感じている×学校や大人に助けてほしいこと（複数回答）



（中学生）お世話に何らかのきつきを感じていると回答した人が、学校や大人に助けてほしいことは、「自由に使える時間が欲しい」「自分の今の状況について話を聞いてほしい」「家庭への経済的な支援をしてほしい」等の割合が高い。

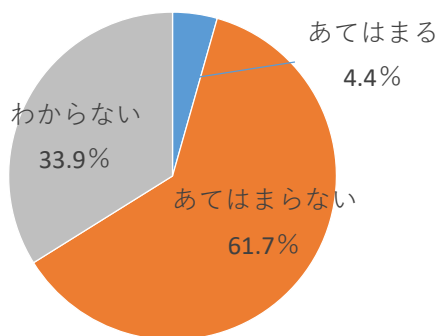
お世話に何らかのきつきを感じている×学校や大人に助けてほしいこと（複数回答）



佐賀市 ヤングケアラーに関する実態調査結果について【小中生】

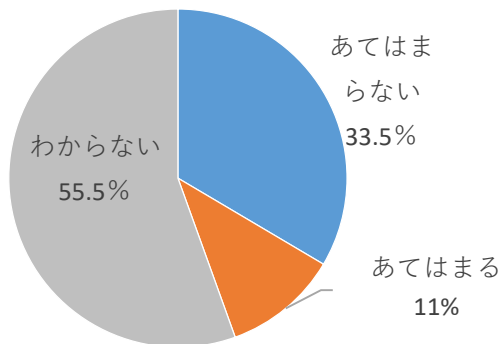
(小学生) ヤングケアラーに「あてはまる」と回答した人は4.4%。お世話をしている家族が「いる」人のうち、「あてはまる」と回答した人は約1割。「わからない」も約5割みられる。

ヤングケアラーの自己認識



n=1,771

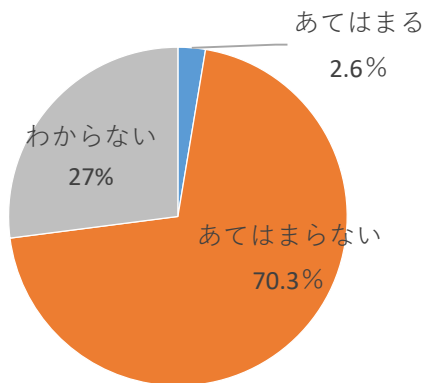
世話あり×ヤングケアラー自己認識



n=272

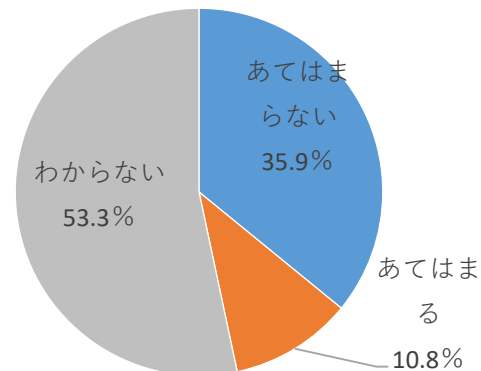
(中学生) ヤングケアラーに「あてはまる」と回答した人は2.6%。お世話をしている家族が「いる」人のうち、「あてはまる」と回答した人は約1割。「わからない」も約5割みられる。

ヤングケアラー自己認識



n=4,504

世話あり×ヤングケアラー自己認識

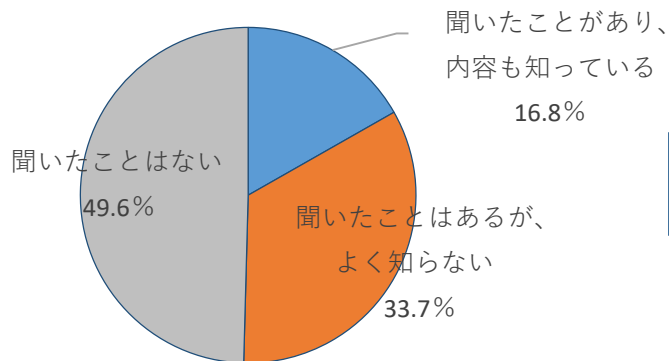


n=195

佐賀市 ヤングケアラーに関する実態調査結果について【小中生】

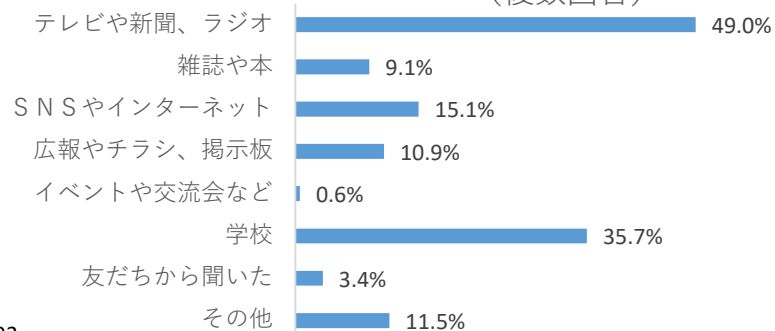
(小学生) 「ヤングケアラー」を「聞いたことがある」人は約5割、知ったきっかけは「テレビや新聞、ラジオ」が最も高い。次いで「学校」と回答。

ヤングケアラーの認知度



n=1,771

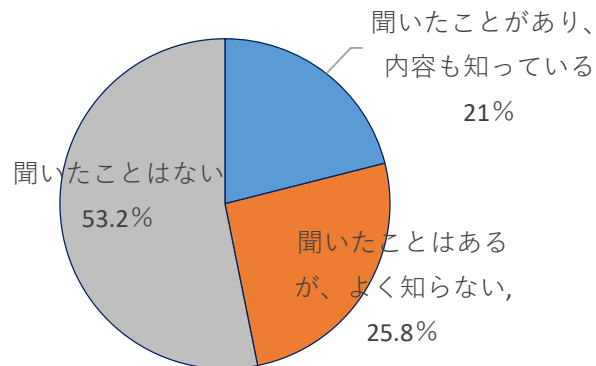
ヤングケアラーという言葉を知ったきっかけ (複数回答)



n=893

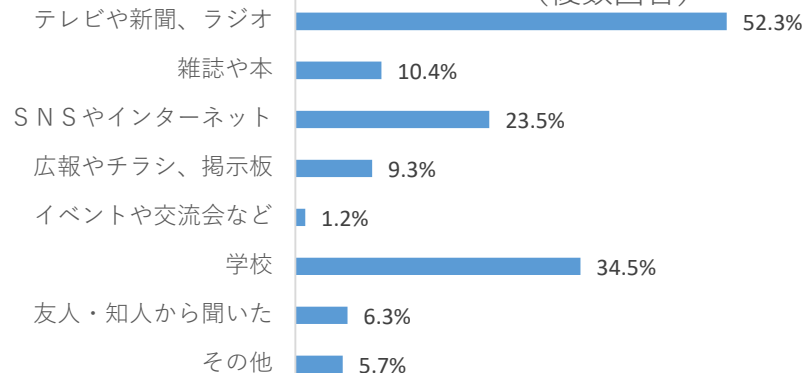
(中学生) 「ヤングケアラー」を「聞いたことがある」人は約5割、知ったきっかけは「テレビや新聞、ラジオ」が最も高い。次いで「学校」と回答。

ヤングケアラーの認知度



n=4,504

ヤングケアラーという言葉を知ったきっかけ (複数回答)



n=2,109

まとめ・考察

○世話をしている家族が「いる」と回答した小学6年生は16.9%、中学生は4.6%

世話をしている家族がいると回答した小学生16.9%のうち、ヤングケアラーにあてはまると回答した人は約1割。中学生は4.6%のうち、ヤングケアラーにあてはまると回答した人は約1割。

○家族の世話をしていることで学校生活等に影響がみられる

世話をしている家族が「いる」人は、「いない」人に比べ健康状態が「あまりよくない」、学校を「たまに欠席する」、遅刻や早退を「たまにする」「よくする」の割合が高く、健康面や登校状況に影響が生じている可能性が考えられる。また、生活への影響については、「自分の時間が取れない」「睡眠が十分にとれない」等のほか、「どうしても学校を遅刻・早退してしまう」「学校に行きたくても行けない」という深刻な回答をした人もみられる。

○世話についての悩みを相談できていない状況がある

世話についての悩みを誰かに相談したことが「ない」と回答した人の割合が高く、その理由としては「誰かに相談するほどの悩みではない」が多い一方で、「相談しても状況が変わることはない」「誰に相談するのがよいかわからない」「相談できる人が身近にいない」等、相談したいのに相談できていない人も一定数みられる。

○周囲に日常生活等における支援を求めている

世話をしていることで、学校や大人に助けてほしいこととして「自由に使える時間が欲しい」「学校の勉強や受験勉強など学習のサポートをして欲しい」「家庭への経済的な支援をして欲しい」「自分の今の状況について話を聞いて欲しい」等の支援を求めている。

○ヤングケアラーに関する正しい理解に向けた普及啓発が必要

ヤングケアラーの認知度については、全体の約半数の人が「聞いたことがある」と回答しているが、内容も知っている人は約2割と低い。知ったきっかけは「テレビや新聞、ラジオ」「学校」から情報を得ている人が多い。

【考察】

家族の世話をしている子どもは、健康面や学校生活に何らかの影響が生じていることから、学校生活での兆候に留意して、周囲の大人からの声かけや話を聞くなどの働きかけをおこない、周囲がヤングケアラーに早期に気付けるような仕組みづくりが必要である。

また、世話についての相談相手やヤングケアラーについて知ったきっかけについて「学校」と回答した人も高いため、ヤングケアラーの認知度向上や支援のためには、子ども達にとって身近な学校と一層の連携を図り、支援や普及啓発活動に取り組んでいくことが有効である。さらに、ヤングケアラーと思われる子どもが安心して相談できる体制を整え、相談してよかった、また相談しようと思えるよう、子どもの気持ちや意見に寄り添いながら必要な支援策を推進していくことが重要である。